

第五章 ピンクのノート

数日たったある放課後、セレナは海岸線^{かいがんせん}に沿^そって散歩していた。カウアイ島は一年中蒸^むし暑い。爽やかで澄^すんだ水が潮の満ち引きによってセレナの両足^たを叩^{たた}いている。

「セレナ、これプレゼント」

ミスエンジェルは後ろに隠していた物を差し出した。そこにはノートがあった。表紙はピンク色でアニメのイラストが描いてあり、と

